



中国支部活動報告

支部委員長：杉立 徹（広島大学大学院理学研究科物理科学専攻）
同庶務：志垣 賢太（同上）
同会計：大杉 節（同上）
同会誌編集：大川 正典（同上）
同ジャーナル編集：両角 卓也（同上）

本年度支部学術講演会活動

- 中国支部、四国支部、日本応用物理学会中国四国支部、日本物理教育学会四国連絡協議会で学術講演会を共催
 - 2003年度支部例会@山口大学 (8/2)
 - 2004年度支部学術講演会@香川大学
- 中国・四国地方の研究者と学生の交流の場として重要
- 学生参加費を本年度から支部負担とする。
- 分野により参加形態に偏りがある。

物理学の啓発活動 (本年度の支部活動の続き)

支部長からのお知らせ (支部HP)

社会連携事業 (2004年2月23日掲載)

日本物理学会中国支部を構成する機関におきまして社会連携事業 (例えば、市民向け学術講演会、公開講座、高大連携シンポジウムなど) の実施計画がありましたら支部長までご連絡下さい。随時、支援策を検討させていただきます。

- 山口大学理学部「サイエンスワールド」 (現時点では名目だけ)
- 広島大学理学部「中学生・高校生科学シンポジウム」 (2004年11月←次年度委員決済事項)

山口大学理学部
2004年3月14日 日
10:00~17:00 入場無料

サイエンスワールド
Science World

2004

維新公園内
山口県スポーツ文化センター
レクチャールーム・視聴覚室

★ 物理学紹介コーナー ★ クイズラリー ★ 科学館でも観覧コーナー
パズル等並に2層解説付 クイズに答える賞品を 観覧する皆様にお贈ります

主 催：山口大学理学部 (TEL. 824-853-5200)
URL: <http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/pw2004/index.html>

支部構成機関の連携

1995年度より支部役員を
5国立大学でローテーション

2003年度 広島大学 (第59期)
2002年度 島根大学 (第58期)
2001年度 鳥取大学 (第57期)
2000年度 岡山大学 (第56期)
1999年度 山口大学 (第55期)
1998年度 広島大学 (第54期)
1997年度 島根大学 (第53期)
1996年度 鳥取大学 (第52期)
1995年度 岡山大学 (第51期)
1994年度 広島大学 (第50期)
・・・
・・・

広島県の場合、1994年まで高校物理
教員との交流会「物理教育研究会」を
毎年実施していたが、広島県物理教育
研究推進会で継続することとなる。

物理学の発展・進歩普及を阻害する
要因の顕在化

少子化・不景気

理数離れ・科学離れ
「不人気の物理」(H16.3 朝日新聞)

科目選択率低下(25%) (同上)

全国選択率	物理(25%)、化学(61%)、生物(54%)、地学(6%)
H15広大理受験率	物理(67%)、化学(99%)、生物(33%)、地学(1%)
H14広大理受験率	物理(64%)、化学(99%)、生物(36%)、地学(1%)

大学入試センター科目枠

新学習指導要領

逆風の中で発展・進歩普及を講じ
る草の根運動(支部活動)が重要



今後の支部体制と活動

支部組織：支部構成機関の**連絡協議会**を組織する。

支部委員：過去10年間、中国地区5国立大学で1年任期の持ち回り制で運用してきたが、**中期的事業**の計画執行が難しいことを感じている。そこで、支部委員任期制を含めて支部連絡協議会で検討する。

支部活動：従来の学術活動に加え、**社会連携**の重要性を認識し、高大連携活動や科学啓蒙活動等に積極的な支援、高等学校教員との意見交換会等を継続的に実施する。

- 大学主体のS P P事業（連携講座）
- サイエンスキャンプ（科技振興財団）
- 高校生＆市民向けの講演会
- 高等学校教員との連携事業
- 小中学校理科教員との交流
- 継続的な事業に繋がる試行（例えば「夢化学21」）